

鳥類の大量死が起きたとき、私たちに何ができるか？

長谷川 理 ・ 黒沢 令子 (北大・地球環境)

この冬、北海道で二つの大量死があった。一つは旭川から札幌にかけて起きたスズメの大量死で、もう一つは知床半島を中心とした海鳥の死体漂着である。国内ではこれまでに、レンジャクやミズナギドリ、ドバトなど、いくつかの大量死が起こっている。大量死の原因は、感染症、有害化学物質の摂取、餓死、油汚染、混獲など様々であり、原因が未解明である事例も少なくない。

大量死の被害拡大を食止めたり、再発を防いだりするには原因解明が必要である。死因の解明は主に獣医師や獣医系研究機関が担うが、フィールド系の研究者や一般のバードウォッチャーもただ指をくわえて待っているだけでなく、死体の回収や関連情報の収集など、原因解明に向けてできることはたくさんある。

ところが突然に身近なところで大量死が生じたとき、行政機関や市民団体、研究者、バードウォッチャーなどが速やかに連携をとり、役割を分担し、スムーズに検体(死体)や情報を集めるというのはなかなか難しい。企画者らは今回のスズメ大量死に関わったが、当初は関係機関との連携がうまくいかず、効率のよい情報収集や検体収集ができなかった。もっと早くから効率良く連携がとれていれば、原因解明に繋がったかもしれないという思いがある。

本自由集会では、大量死が起きた際に私たちに何ができるのか、また普段からどのような取り組みをしておくべきかを議論したい。

【発表者と発表内容】

まず、この冬に北海道で起こった二つの大量死について、その概要を紹介していただき、その際の活動や取り組み、反省点、今後の課題などについても紹介していただく。

1. スズメ大量死の概要と取り組み(北海道大学 黒沢令子)
2. 知床周辺の海鳥漂着の概要と取り組み(東京農業大学 嶋崎太郎)

続いて、死因解明のための検査項目や検体(死体)を回収する上での留意点をご説明いただき、野生動物の死因解明についての現状および問題点とあわせて紹介していただく。

3. 死因解明のための取り組み(酪農学園大学 浅川満彦・吉野智生)

最後に、大量死に関するデータベース(死亡個体の電子カルテ、病原体GIS、生息環境GIS)について紹介していただき、これらの情報の活用策をご説明いただく。

4. 大量死に関するデータベースの構築(北海道環境科学研究センター 長雄一)

【意見交換】

本集会では、これまで起きた大量死の個々の原因(死因)について深く追求することよりも、今後また何らかの大量死が身近に起きた場合に、どのような行動を取ればよいのかという点に焦点をあてたい。また、日頃からのモニタリングやネットワーク作りの必要性についても話し合いたい。